

平成 24 年度 なびい 事業報告

■基礎データ

実支援対象者 134 名（内 市内登録者 109 名・未登録者 12 名）

平均年齢 50.4 男性 83 名・女性 68 名

統合失調症 85 名・うつ、気分 15 名・発達 4 名・人格 11 名・知的 9 名・不安 6 名・その他 4 名

■全体として

平成 24 年 4 月、障害者自立支援法の一部（障害者の範囲の見直しなど）が改正された。このうち「（障害者の）相談支援の充実」によって地域での相談支援体制の権限が、都から区市町村（国立市）に委譲されることになったのである。つまり自分たちの提供しているサービスが、身近な場所でチェックされるということである。これにより、利用者に質の高い支援を提供する事はもちろんのこと、その自分たちの支援を国立市民や国立市に対してもきちんとアピールしなければならないと改めて考えさせられた。法改正以前に検討していたのだが、この出来事により、予定より前倒して平成 24 年 6 月に国立・富士見台地区に引っ越しをしている。国立地域での精神しょうがい者への相談支援事業の存在感を前面に出していきつつ、わかりやすい場所に移った事で、広くなびいのことを知っていただきたいと考えた。

この様な背景のなか、なびい職員は下記基本活動方針に基づき活動した結果、平成 24 年度は十分な実績を上げることができたといえる。以下で個別の事業の具体的な取り組みを総括する。

■平成 24 年度当初方針

【相談支援事業】

市民ニーズにこたえられるよう、まずは広くなびいを知ってもらい、相談件数の増加を図るとともに、職員の支援力の質の向上に努める

●個別支援計画への取り組み●障害・年齢など多様な層を視野に入れた支援力の向上

【地域活動支援センター事業】

通所事業等に繋がっていないあるいは通えない方に、安心できる場の提供を行ない、生活の幅が広がるような空間作りに努める

●新規プログラムの検討とセンター事業利用者の増加●他事業所との共催プログラムの推進●ピアサポーターの継続等、医療機関との連携

■方針を振り返って

【相談支援事業】

新規相談者の傾向としては引きこもりケース、家族多問題ケースなど、困難ケースが増えてきている。

実績であるが「新規相談者」「新規登録者」共に増加した。継続相談されている方の紹介元としては病院・市役所・棕櫚亭と分散している。新規の増加理由としては、「相談支援事業所が福祉サービスの入り口であるという」関係者の意識が定着し始めた、加えて市役所からのケース紹介も増えてきた事にある。一方「新規登録者の増加」は、時間をかけた丁寧な個別支援によって達成している。

「個別支援計画（サービス利用計画）」への取り組みについては、ほとんど取り組みができなかったが、年度末から取り組みを開始し、市への提出 2 件、作成中 8 件となっている。次年度以降取り組む体制は出来てきている。

「支援力向上」については、現状では職人的な仕事に終始している。次年度の引き続きの課題だともいえる。

【地域活動支援センター総括】

「センター利用者の増加」については、増加した。これまでのフリースペースとは少し顔ぶれも変わってきており、通う場所がない・家から出られない人達への場の提供になった。

「他の事業所との連携」「医療機関との連携」については、今年度ほとんど取り組むことができなかったが、ピアサポーターによる根岸病院との退院促進プログラムを継続しており、好評を得ている。ピア活動については次年度事業の中でも拡大したいところであり、ピア職員の動きも含めて 25 年度前期で検討していく。

「地活プログラム」に関しては、非常勤職員が中心となり、いくつかの新しいプログラムに取り組む中で、利用者もかなり増えており、安心して通える場の提供に繋がった。

平成 24 年度 棕櫚亭 I 事業報告

■基礎データ

基礎データ（3月31日現在）

登録者数 40名（市内34名・市外6名*男性26名・女性14名）

年代別登録者（20代3名 30代13名 40代8名 50代14名 60代2名）

うち新規登録者 3名（30代1名・50代2名）

利用者平均年齢 44歳 1日平均利用者数 14人（実来所者数）

他施設・他サービスの利用状況

なびい 29名 ヘルパー10名 訪問看護 10名 権利擁護 3名

配食サービス 4名 グループホーム（滞在型） 2名

■全体として

元気なメンバー・安定通所するメンバーも増え、午前中から賑やかな棕櫚亭 I がすっかり定着している。各々のプログラム活動も活性化し、グループとしてのまとまりもさらに強まった1年であった。市民祭を始め、行事・イベントの参加者も増え、新しいメンバー達がイベントのプロジェクトを担うなど、長期在籍メンバーの刺激にもなっている。

年代的には、平均年齢44歳（昨年より確実に1歳上がっている）。40代以上（24名）で登録者の60%を占め、そのうちの半数の12名の方が、5年以上の利用となっている。このように、棕櫚亭 I に通うことで安定した地域生活を継続しているメンバーにとって、他施設への移行は現状では考えにくい。また、家族の高齢による病気、介護の相談なども出始め、本人の高齢化はもちろん、家族を支える本人をどう支えていくかが新たなテーマとして加わった。一方、20・30代の利用者には、こまめに個別面接をしているが、次への具体的な動きまでにはなかなか進まず、苦慮しているところである。

施設全体として、年代の2極化・利用目的の多様化などは、さらに進むものと予測され、利用者の状況・ニーズにどのように対応して支援していくのか、組織全体で検討していく必要を感じている。

■平成 24 年度当初方針

- ① グループワークの機能を活かしながら、利用者にとって魅力あるプログラム活動やピアス軽作業への参加をすすめる
- ② 別面接を深め、利用者・支援者ともに次のステップへの見通しが持てるようにする
- ③ 用者の障害多様化、高齢化に対応した柔軟な支援を模索していく

■方針を振り返って

《プログラムについて》

午後のプログラム（ウォーキング・絵画教室・スポーツ）は、参加人数も10名前後と安定しており定着してきたといえる。ウォーキングは、地元に出かけることで自分の地域を知り、余暇を楽しむきっかけ作りにもなっている。スポーツは、個人の健康増進はもちろん、グループ作り、施設全体の盛り上がりの機会となっている。絵画教室は自己表現の一つとして、また作品発表の場があることで、モチベーションアップにもつながっている。

昨年引き続き、なびいと共催で「元気回復行動プラン」WRAPを外務より講師を招いて3回実施した。各回15名前後の参加があり、他の人の話を聞いて参考になることも多かったようだが、アメリカで開発されたもののためか、「内容的にも、使われている言葉も難しく、情報量も3日でこなすのは大変だった」という声が多かった。ただし、リカバリーのために、自分の生活を自分で工夫していく素晴らしいプランであるので、メンバーの日常生活に生かせる形で取り入れていきたい。

高齢化に伴い、ここ2年余りで4人の60代メンバーが亡くなっている。これをきっかけに、自分の体の健康を自分で意識し、メンテナンスしていけるようにということで、7月よりライフプログラムと銘打って、食生活・服薬・睡眠など日常に密着したテーマで実施した。内容・情報量・進行等おおむね好評のため来年度も実施予定である。午後のプログラムについては、次年度もこのスタイルを基本として継続していきたい。

《個別面接・なびいと連携など》

個別面接はほぼ全員に定着してきた。比較的若い世代は、日々の振り返り・自分整理の手がかり作りとして定期面接の間隔を短めに設定をしてきており、こちらも定着してきている。

なびいには29名が登録しており、情報共有のために2ヶ月に1度合同職員会議を行うが、全員そろっての実施は困難だった。加えて、ケースカンファレンス・社会資源見学ツアーも実施できなかったため、次年度はしっかり計画・実行していきたい。

いずれにしろ、なびいと連携は不可欠なものであり、これからも、新規ケースのアセスメント・在籍メンバーの相談支援・訪問・家族調整など協力体制をお願いしたい。

平成24年度 オープナー事業報告

■全体として

平成24年度は就職者、職場実習者数共に大きく伸びた年となった。その理由には、障害者の雇用を取り巻く状況が変わったことによるところが大きい。企業の障害者雇用は2%達成のために加速がつき、求人数・業種・仕事内容は広がった。一方、求職者の状況として病気の複雑化、発達障害等支援の難しさがある。今後は準備の整っている障害者を着実に繋げていくやり方では会社のニーズとスピードに追いつかないのではないかと危惧している。精神障害者が雇用されやすくなったことはとても嬉しいことではあるが、雇用定着・離職支援に忙しくなることを意味しており、悩みは尽きない。職員の新体制で臨んだ年度ではあるが、個人の力量に頼る結果となった。

■平成24年度当初方針

- ① 新体制によるチーム力の強化。働きやすい職場とマンパワーの効率化を目指す
- ② 就職者数45名（法人内部15名以上）職場実習数40名を達成し加配獲得を目指す
それにより増加する支援ニーズに対応可能なマンパワーを都・国に対して要望する
- ③ 連携就労支援施設との関係性をより強め、定着化を図る

■方針を振り返って

I. 相談支援 **新規相談支援** 今年度新規相談者・・・合計48件

- ① 医療機関・福祉施設・相談支援事業所等からの紹介が増加 → 紹介元の幅が広がった
- ② 各市区町村事業等での受け入れが難しいケースを、結果的にオープナーが受ける形が増加

準備支援 【職場実習】今年度46件を達成（規定は30件）

- ① 企業による雇用前の実習提案が定例化傾向にあり、大幅な件数増加となった
- ② 実習期間における交通費等の経費捻出が懸念事項（当事者の所得の格差が影響）

就職者状況 今年度就職者48名（目標は44名・規定は15名）

今年度も前年度を上回るこれまでで最高の就職者数となった（全体の80～90%が雇用率算定対象）。その要因としては統合失調症の利用者が30時間以上の就職を選択していることが挙げられる（全6名）。結果オープナーの就職・定着支援の実績が評価され、2回目の加配獲得につながったことは大きな成果である。

定着支援 就職して3～4年目で職場環境の変化や求められることが大きくなることにより揺れる方が何人か出て、離職につながるケースもあった。その中で、スキルアップや再支援・再就職などで乗り切るケースもあり、定着支援にかけるマンパワーが増大した1年であった。

II. プログラム・当事者活動の支援

仕事談話室 参加者は毎回17名前後。納涼会等イベント時は30名ほどの参加者があり盛況。昨年より統合失調症の方中心から様々な障害・疾病の利用者が混在する形と変化しているが、現在は知的障害の利用者中心にグループとして関係性はさらに強まりをみせている。

III. 自治体との連携

主な連絡会議は四半期のペースで実施（情報共有、庁内チャレンジ雇用・自立支援協議会に関する意見交換）また東大和市の就労支援センター立ち上げに伴う、就労支援専門部会への参加協力も行なった。

IV. 広域事業としての発信と提言

当事者セミナー 【11月】第2回『働きたい！を応援する、働く当事者からの実践報告セミナー』

多摩就労ネットワーク連絡会議（HW立川共催開催）

【2月】『障害者法定雇用率2%への挑戦～就労移行支援事業の取り組み～』

研修での講師活動 【当事者・家族向け講習】5件【関係機関・支援者向け講習】8件【企業向け研修】5件

外部事業委員 ○産労局主催オーダーメイド型障害者雇用サポート事業 ○東京都就労支援協議会
○東大和市就労支援事業 ○厚労省研究作業部会

取材 ○TV『NHKニュースウォッチ9』 ○共同通信

平成 24 年度 ピアス事業報告

■全体として

<経営・運営>24年度も引き続き新規利用者をコンスタントに受け入れた結果、1日当たりの平均利用者数は32名(定員)を超えた1年となり、当初予算・補正予算を大きく上回る結果となった。

<就労トレーニング・プログラム>トレーニングは全体的に早めの展開で進んでおり、6か月サマリー(チェックリストを使用したケース検討会議)後、すぐにトゥリニテ・くにたち苑などの外部トレーニング(実習前実習)に参加するようになっている。人数が増えている中でも、このような取り組みにより個人に焦点が当てられ、効果的なトレーニングの流れになっていると思われる。一方で、場が細切れに広がっているために職員間の共有や調整が難しくなっており疲弊感も出てきた1年間であった。

<就職者>就職者は20名(+チャレンジ雇用2名)と前年度を大きく上回ることが出来たが、理由として『雇用率2.0%』の影響も大きいと思われる。好調な反面、求人が先に来てしまうことから会社に就職してからの定着支援、施設としての合意があいまいになってしまうこともあった。

今年度は様々な面で成果は出ていると言えるが課題も多い。特に後述している『厨房中心から事務部門の拡大』のようなトレーニングの再編成、それに伴う『質』としての『リアル感』も維持しなければいけない。また、利用者層や外部状況に合わせてどこまで広げていくのか、または定めていくのが引き続き大きなテーマである。

■平成 24 年度当初方針

A 事業の安定的運営

① 1日平均利用人数 29.1 ② 利用見学・体験実習・入所日の受け入れ方の工夫 ③ 就労率・定着率の維持向上

B 就労支援の質の向上

① 基礎トレーニング期間でのアセスメントの取り組み、暫定支給の導入についての検討 ② 就労プログラムのルーチン化 ③ CESプログラムの定期的実施 ④ ジョブコーチの配置

C トレーニングの量と質の確保

① 施設外就労の取り組み(くにたち苑) ② 高齢者配食事業への参入

D 機能の組み換えの本格実施

① トゥリニテの外部トレーニング的利用の実施 ② ピアスのトレーニング量の確保 ③ 職員の一体的チーム体制の確立

■方針を振り返って

A 事業の安定的運営 ⇒ 別紙

B 就労支援の質の向上

基礎トレーニング期・暫定支給の検討 基礎訓練期導入後ピアスへの定着は進んだが、その先の就労トレーニングへ進みづらい方もでてきている。暫定利用期間を積極的に利用し、早めに特性やピアス利用のイメージを本人と共有する事を検討し3期より取り組み始めている。

就労プログラム 後期より「職場実習～就職活動前」「実践期」「基礎訓練期」の3グループに編成し、内容もそれぞれの状況に合わせたものと変更した。特に「職場実習～就職活動前」のグループは、今まで個別に対応してきた書類作成等をグループで行う事となり、効率的となった。一方、グループ別になったことにより焦りや葛藤が生じる方もいて、プログラム充実度やグループ間の移行のわかりやすさが今後の課題と感じている。

CESプログラム 今年度導入した発達障害を持つ方に対するコミュニケーションプログラム『CES』が、早めの本人の全体像の理解に効果的な事を実感した1年であった。障害の特性から考えて、トレーニング開始直後からCESに参加できるようなシステムにできるよう取り組む必要性を感じている。

ジョブコーチの配置 ピアスケース7人の支援に入る。本人たちと普段から一緒にトレーニングしているスタッフがジョブコーチとして配置されたことで、本人にとっても、そしてピアス・オープナーにとっても効率的な結果となった。

C トレーニングの量と質の確保

施設外就労の取り組み(くにたち苑) **高齢者配食事業への参入** 6月から新しく導入した特別養護老人ホームでのリネン作業による施設外就労の取り組みは、当初の予定よりも早く安定し、利用者にとっては外に出る最初の一步となっている。また、高齢者配食への参入は無事出来ることとなり、2回の試験実施とスタッフ体制の配置等準備を行った。

D 機能の組み換えの本格実施

トゥリニテの外部トレーニング的利用 特性の理解・時間数等のチャレンジにとっても効果的な1年で、多くのメンバーが利用した。一方でレストランという点で、常に実習に取り組むメンバーを調整していくことの大変さもたびたび発生した1年であった

ピアスのトレーニング量の確保 外部状況に合わせて事務補助部門の拡大に取り組んだ。基礎トレーニング期のアセスメントも含めて、幕張ワークサンプル(練習用キット)を本格導入し、従来の実践事務との両輪で機能し、受け入れ人数も徐々に増やすことができた。

職員の一体的チーム体制の確立 上記のような取組の結果、場が細切れになり職員間の共有の場が少なくなってしまうことを受けて、週2回の共有ミーティングを夕方に実施した。

平成 24 年度 オープナー・ピアス 事業報告 資料編

オープナー

■基礎データ

新規相談者 117 名（内新規登録者 54 名） ⇒ 総登録者 218 名（昨年 215 名）

（昨年度 新規相談者 114 名、内登録者 58 名）

就職者 48 名（内ピアス 21 名、外部 27 名）、離職者 17 名（年度内離職 2 名、期限満了・キャリアアップ 2 名）
（昨年度 42 名）

職場実習 46 名

<24 年度就職者の病名別内訳>

病名	24 年度	23 年度
統合失調症	28	26
てんかん	1	1
うつ（気分障害）	7	5
神経症圏	4	1
発達障害	4	6
高次脳障害	1	1
知的障害	3	2
計	48	42

ピアス

■基礎データ

新規見学者 53 名（内新規入所者 30 名） ⇒ 総登録者 59 名（昨年度 59 名）

（昨年度 97 名、内新規入所者 41 名）

就職者 21 名（内 1 名 期限付きチャレンジ雇用）、年度内離職者 4 名（内 2 名年度内再就職者 2 名）

（昨年度 17 名、内 1 名期限付きチャレンジ雇用）

病名別利用者層 統合失調症 55%、気分障害 21%、発達障害 18%、てんかん・人格障害・その他 各 2%

年齢別利用者層 20 代 29%、30 代 36%、40 代 28%、50 代以上

<24 年度 月別利用者数の推移>

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均
1 日平均(土除)	35.5	35.9	35.0	33.6	31.8	32.5	30.6	31.1	32.1	30.9	30.7	33.8		32.8
開所日数	20	21	21	22	20	19	22	21	19	18	19	20	242	20.2
1 日平均(土含)	35.5	32.8	29.2	29.2	24.8	25.5	27.0	26.2	24.5	25.0	26.4	26.6		27.8
開所日数	20	23	26	26	27	25	26	26	26	23	23	26	297	24.8
入所	3	3	0	3	2	2	2	4	3	4	3	1	30	2.5
見学	4	1	6	3	1	2	6	3	7	5	3	4	53	4.4
体験	1	1	0	0	2	2	0	3	2	3	4	3	21	1.8
就職	0	2	1	2	2	3	4	1	3	2	0	0	20	1.7